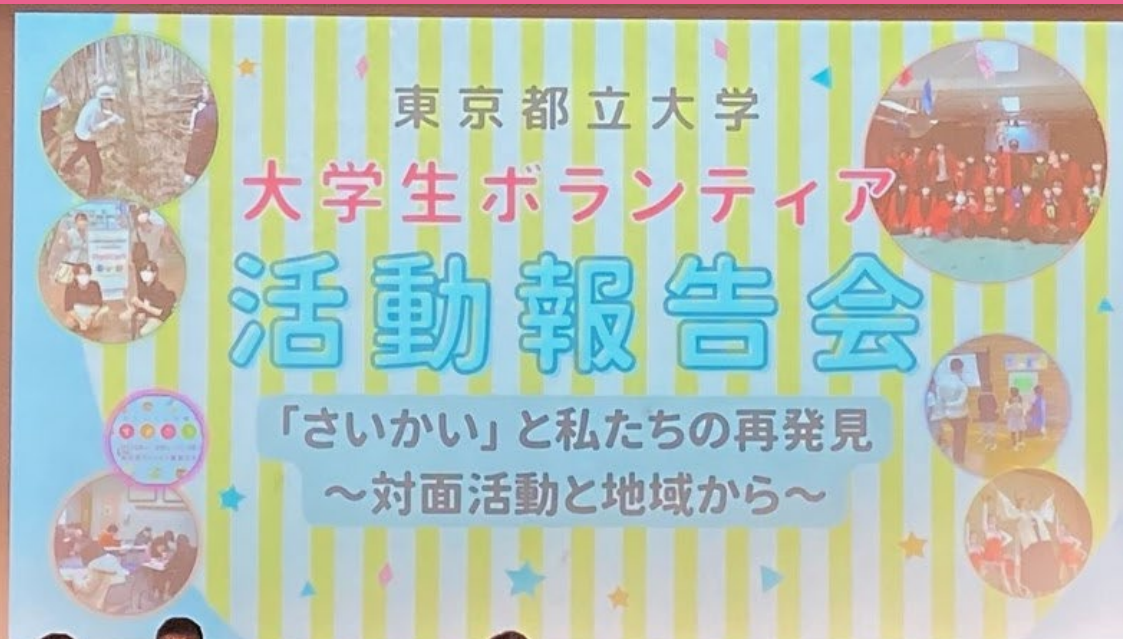


# 都立大ボラセン

— 都立大から生まれるボランティア活動 —

Vol.4



## 特集1

2022年度「大学生ボランティア活動報告会」を実施しました

## 特集2

2022年度「スポーツボランティアプログラム」と「地域ボランティアプログラム」を修了しました

## 特集3

荒川キャンパス第36回青鳩祭に出展しました

学内団体  
News

・ 相模原中高生勉強会  
・ WILDBOARS

# 目次

---

## 特集1

2022年度「ボランティア活動報告会」を実施しました	3
----------------------------	---

## 特集2

2022年度「スポーツボランティアプログラム」と 「地域ボランティアプログラム」を修了しました	8
----------------------------------------------------	---

## 特集3

荒川キャンパス第36回青鳩祭に出展しました	12
-----------------------	----

## 学内団体 News

相模原中高生勉強会	13
WILDBOARS	14
Activity Gallery	15

# 2022年度 「大学生ボランティア活動報告会」を実施しました

## 大学生ボランティア 活動報告会

2023年3月16日（木）、南大沢キャンパス講堂小ホールにて「大学生ボランティア活動報告会」を実施しました。今回は、「『さいかい』と私たちの再発見～対面活動と地域から～」をテーマに、学内の7団体が2022年度の活動状況を発表しました。

### 発表団体（学内の7団体）

今回の報告会は、本学内の7団体が発表しました。（発表順に掲載）

1. 東日本きずなプロジェクト
2. SCOK（2023年度より団体名を『相模原中高生勉強会』に変更しました）
3. 児童文化研究会
4. 地域ボランティアプログラム
5. スポーツボランティアプログラム
6. 応援団リーダー部
7. 学生コーディネーター



### 第1部 発表団体の活動報告・質疑応答

#### 1. 東日本きずなプロジェクト



まず最初は、東日本きずなプロジェクト（以下、きずなとする）の皆さんが発表しました。きずなは、岩手県大槌町を対象に、東日本大震災（2011年）の被災地で現状や東北の魅力を学び発信し、周囲の方に興味関心を持ってもらうことを目的に活動しています。きずなにとっての『『さいかい』と私たちの再発見』は、対面活動の再開、でした。メンバーや他大学生との再会、東北へのツアーの再開、それによる大槌をはじめとする東北の魅力の再発見でした。また、学生大会への参加や、大槌へのツアー（大槌祭りへの参加）、みやこ祭での屋台出店など、複数の対面イベントを実施しており、活動を通じて、「交流の大切さを実感した」「現地に行き肌で感じることは見聞きすることの何十倍も価値がある」「隔たりを感じることはない」「郷土料理にはパワーがある」といった感想があげられました。全体を通じ、きずなでしかできないこと、みんなできずななんだと感じたメンバーもあり、今後もきずならしいハイブリッド（オンラインと対面）のそれぞれの強みをいかした活動を継続していきます。

#### 2. SCOK（現：相模原中高生勉強会）



続いて、SCOKの皆さんが発表しました。SCOKは、生活保護受給家庭の中学生・高校生年代を対象とした学習支援を主な活動としており、勉強会だけでなくイベントを通じ、居場所づくりに重きを置いた活動をしています。勉強会を通じ、生徒にとっては勉強だけでなく相談や雑談などコミュニケーションをとることで学校や家とは違った居場所となり、学生ボランティアにとっては生徒の置かれている現状理解や、イベントの運営企画、子どもと関わる機会があることで、双方の居場所になっています。特に、2022年度は古民家でのイベントを再開し、じゃがいもやさつまいも堀り、合宿やもちつき大会・卒業旅行を実施し、土に触れる、人と協力する、調理をする機会その他、地域を問わず人と交流する機会を提供できました。今後も、ボランティア活動の人手不足という課題は抱えつつ、生徒の声を聴きながら参加しなくなる勉強会・イベントづくりを行っていきます。

大学生ボランティア  
活動報告会

## 第1部 発表団体の活動報告・質疑応答

## 3. 児童文化研究会



続いて、児童文化研究会の皆さんが発表しました。

児童文化研究会は、人形劇を中心としたボランティア活動を行うことで地域の子供たちを楽しませることを活動目的としており、保育園や児童館、学祭等で年5回ほど公演を行っています。

2022年度は、コロナ禍で実現できなかった対面での公演を形にできたことや、地域の方に楽しんでいただけたこと、人形を活かした活動でクイズをするなど、児童文化研究会ならではの方法で子供たちを楽しませることができ、良い活動ができたと感じていました。

一方で、久しぶりの対面公演であったことから不慣れな箇所もあり、公演を見てもらう子供たちを集めるのがうまくいかなかったことや、コロナ禍前に親交のあった施設との交流が現在はほとんどなくなってしまった、という環境変化による反省点もありました。

## 4. 地域ボランティアプログラム



前半最後は、地域ボランティアプログラムの皆さんが発表しました。

地域ボランティアプログラムは、南大沢キャンパスの松木日向緑地にて里山保全や利活用を通じ地域交流を豊かにする活動を行っています。学部生・院生・プレミアムカレッジ生の垣根なく活動しています。2022年度は、活動2年目となる「サポーター」の学生が例年に比べて多く、昨年度の活動内容を生かした技術の伝承が十分にできただけでなく、「どうやって活用しようか」をメンバー同士で話をしたり、作品を作って見せあうといった対面ならではの交流ができました。

更に、昨年度まではコロナ禍でできなかった“人と人の交わり”を大切にするため、緑地散策や、自分で伐採した竹から作成した湯飲みでストーブを囲いながら焼き芋等を食べつつメンバー同士で座談会をする、等新たな交流の場を作ることでもでき、メンバーが楽しむことや、竹林だけでなく緑地全体の再発見にもつながりました。

## 5. スポーツボランティアプログラム



後半最初は、スポーツボランティアプログラムの皆さんが発表しました。スポーツボランティアプログラムは、スポーツボランティアの理論を学び、スポーツイベントでの実践を通して、スポーツを通じた地域活性化やインクルーシブな社会の実現、スポーツ文化の醸成を目指すための活動を行います。

2022年度の活動であった「さいかい」や「再発見」は、イベントの企画・運営・実施の全てができたこと、イベントに複数回参加してくれた方がいたこと、小学生と交流できたこと、わかりやすい掲示や説明をすること、考案したオリジナル競技「くつしたまいれ」ができたこと、シリーズ化したイベント実施により活動の連続性が感じやすかったこと、実際の試合を観戦して競技の迫力を実感できたこと、選手や他団体のボランティアの方と繋がりを持てたこと等、たくさん挙げられました。今後は、より多くの人数での活動や、他大学など同世代との交流、講習会による事前の知識取得など、精力的に活動していきます。

大学生ボランティア  
活動報告会

第1部 発表団体の活動報告・質疑応答

6. 応援団リーダー部



続いて、応援団リーダー部の皆さんが発表しました。応援団リーダー部の行うボランティア活動は、南大沢または周辺地域のイベントに出演し演舞等で盛り上げたり、小中学生に応援の楽しさを伝えます。ボランティアも応援も「人のために動くことのおもしろさ」は同じ、という信念で活動しています。2022年度は、コロナ禍で縮小していた対面の活動が再開できたことで、いくつもの大会やイベントで対面での応援ができました。今後も、感染対策は講じつつ、より多くの大会やイベントで応援を行い、活動を盛んにしていきたいと考えています。

7. 学生コーディネーター



最後は、学生コーディネーターの皆さんが発表しました。学生コーディネーターは、同じ学生の立場から、学生と地域をつなぐ活動や、都立大のボランティア活動の機運を高めるサポートを行っています。2022年度は、対面イベントを中心に複数の企画を運営・開催し、いずれも盛況でした。特にサマボラは来客数も多く、学生とボランティア活動が結びつくきっかけとなり、参加団体・参加学生双方に満足度が高いイベントとなっただけでなく、実際にボランティア活動まで実施できたケースもありました。一方で、オンラインイベントも対面イベントも、参加者の集客においては難しさを感じる場面もありました。また、コロナ禍で途切れてしまった地域団体との交流を再開させるに当たり、1から関係性を作り直す難しさにも直面しました。

第2部 発表団体によるパネルトーク

学生コーディネーターをファシリテーターに迎え、各団体の代表者に、様々な質問を元にそれぞれの思いを語っていただきました。

前半は、東日本きずなプロジェクト、地域ボランティアプログラム、学生コーディネーター、応援団リーダー部の4団体の代表の方が登壇し、それぞれの思いを聞かせてくれました。(ファシリテーターは安井亮太さん) いくつか印象深い質問をご紹介します。



Q 対面活動を再開して一番印象に残った「さいかい」は？

- 地域ボランティアプログラム (篠原さん)  
マスクを外してもよい、という雰囲気拡大もあり、竹林の中で徐々にマスクをせずに自然と向き合えたこと。伐採した竹で作ったコップで、ストーブを囲んで座談会を行い、話すことの良さも再発見できた。
- 応援団リーダー部 (中村さん)  
対校戦でマスクをせずに応援合戦ができたこと。解放感と迫力があり、「さいかい」を実感ができてよかった。OB・OGの方や地域の方に声をかけてもらい、色々な方に支えられ、つながっているという実感を得られた。

大学生ボランティア  
活動報告会

第2部 発表団体によるパネルトーク

Q 対面活動を再開して一番印象に残った「さいかい」は？（続き）

- 東日本きずなプロジェクト（山口さん）  
入学後、初めてきずなプロジェクトとして東北へ訪れることができたこと。オンラインを通じて気持ちを高めていた一方で、東京から来訪することでコロナ感染を拡大してしまう可能性もあるという不安もあったが、対面活動の再開に伴い実際に訪れることができたのは非常によかった。東北に行くこと『元気になる、楽しい』と感じたこと、東北の自然（空や海）はすごく素敵なものに見えること、美味しい海鮮も食べられること、等実際に行かないとわからない魅力に触れられたことが、一番印象に残っている。
- 学生コーディネーター（関谷さん）  
今回のイベントである「大学生ボランティア活動報告会」がまさに「さいかい」そのもの。今までは見る側だったが、今回はコーディネーターとして、人と地域をつなぎ、作る側として参加しているが、自分の参加の仕方が変わったことで「さいかい」を実感できた。特に、直接表情や反応が見えることが、大きな違いとして感じられた。



Q 対面ならではの価値とは何だと思うか？

- 地域ボランティアプログラム（篠原さん）  
五感の情報量の差、だと思う。オンラインでは視覚情報が変わるだけだったが、実際の活動だと、気温や風を直接肌で感じたり、人との触れ合いができるので、その差はやはり違うと感じられた。
- 学生コーディネーター（関谷さん）  
互いのアクションが見えること。オンラインだと「間合い」がわからず、時々誰も話さない（どうしていいかわからない）ような時間があるが、対面だと「間合い」が見てとれる。その「間合い」をすごく大切にしたいと考えているので、自分の中ではすごく価値を感じられた。

Q 地域の中での活動で得たものは何か？それを自分たちの活動にどのように還元したいか？

- 東日本きずなプロジェクト（山口さん）  
東北の自然との触れ合い、魅力ある食べ物や人の温かさを得ている。活動を通じて感じ学んだことを素直に発信することで、巡り巡って自分たちの活動に還元されているように思う。きっかけは個々に違うが、東北は魅力的な場所だと、誰かに伝えたい、もっと知りたいと思う気持ちがあるから活動できていて、その思いが東日本きずなプロジェクト全体を動かしているように思う。
- 応援団リーダー部（中村さん）  
応援団は応援する対象がなければ成立しない。地域の方・団体からご依頼があれば応援に伺う形なので、応援できる対象そのものが得たものであり、応援を通じたつながりが地域にも自分たちにも還元されていると思う。

▶ 各団体へのメッセージ（アンケート結果より抜粋）

【応援団リーダー部へ】  
様々な場で人を応援する楽しさを伝えれば共感する人は必ずいると思います。

【東日本きずなプロジェクトへ】  
受け継いでいるものも大切にしながら、今の世代だからこそそのしなやかさを存分に発揮して今後の活動を大切に結いでいってほしいと思いました。

【地域ボランティアプログラムへ】  
自然だけでなく、地域の人々との交流は準備も大変だと思いますが、苦労した分だけ得られるものもたくさんあると思います。

【学生コーディネーターへ】  
ボランティア活動への架け橋として対面での活動が盛り上がるように頑張ってください。

大学生ボランティア  
活動報告会

第2部 発表団体によるパネルトーク

後半は、児童文化研究会、スポーツボランティアプログラム、SCOKの3団体の代表の方が登壇し、それぞれの思いを聞かせてくれました。いくつか印象深い質問をご紹介します。（ファシリテーターは山崎航輝さん）



Q 人と関わるならではの発見はあったか？

- SCOK（星さん）  
**学習支援で教えていた中学生の成長を見れたこと。**最初会ったときは目が合わない、会話もつながらない等あったが、徐々に関わりを増やしたところ、中学卒業時には、卒業の挨拶に来てくれたり、高校生活の展望をキラキラした目で語ってくれたりといったコミュニケーションがとれるようになった。こどもたちの成長を身近で見れたことは非常に嬉しいと感じた。
- スポーツボランティアプログラム（村瀬さん）  
元来、人と話すのはあまり得意ではなく、自分でもそのように決めつけていた部分があったが、実際ボランティアの活動がスタートし、どんどん活動が再開していく中で、「**知らない人と話すのは嫌いじゃないな**」と気づけたこと。活動を通じ、小学生や大会運営の方と話すにつれ、「話すのは嫌いじゃないな、もう少しやってみよう」と一歩進むことができた。
- 児童文化研究会（松尾さん）  
**来てくれた子供たちや保護者の方のリアクションが見れたこと。**演じる人も、脚本を書く人も、音を出す人等、劇を作っているみんなが「子供たちを楽しませる」という思いを持ってやっているからこそ、間近に感じられる、0秒で伝わる、というのが一番感動した。

Q 今後、地域にどうやって関わっていこうと思っているか？

- SCOK（星さん）  
自分たちが（学習支援等を通じて）生徒に関わることで、その生徒が大人になったときに、**自分たちが（生徒たちに対して）やったことを次の世代に受け継いでもらえるように**関わっていきたいと思う。
- スポーツボランティアプログラム（村瀬さん）  
大会に来た観客の方に「このスポーツの大会、楽しかったね」といってもらえるような大会ボランティアや、自主企画したイベントも「**こんなスポーツあったんだ！**」「**楽しかった！またやりたいね！**」「**来年もあたらしいな**」と地域の方にいってもらえると、**来年・再来年と継続できる**ので、（ボランティアプログラムの活動が）継続的な地域交流の活動を促進する一助になれば嬉しい。
- 児童文化研究会（松尾さん）  
ボランティアは自分たちも楽しめるからやっているものだと思っており、自分たちが楽しんでやっていることは子供たちや地域の方、周囲の方にも楽しめる、ということをお忘れずに、**子供たちや地域の方が何を求めているか、それに応えていくこと**を意識して活動していきたい。

各団体へのメッセージ（アンケート結果より抜粋）

【児童文化研究会へ】

YouTubeでぜひ人形劇拝見したい！  
と思いました。  
いつか見にいきたいです。

【SCOKへ】

活動内容が似ていて共通点も多くとても興味を持って聞くことができました。

【スポーツボランティアプログラムへ】

スポーツだからこそできること、この競技だからこそできることというようなスポーツボランティアの可能性にも想いを馳せていたのが印象的でした。

# 2022年度「スポーツボランティアプログラム」と「地域ボランティアプログラム」を修了しました

スポーツボランティアプログラムの2022年度の活動を、写真や学生の感想とともに振り返ります。昨年、小学生とのパラスポーツ交流イベントや、ブラインドスポーツ大会等、計8回活動を実施しました。

## ■ スポーツボランティアプログラム



「助ける」という意識が活動前はあったが、「助け合う・協働する」という意識に変わった。



思っていた以上に地域の人と関わる機会が  
つくれるものだと感じた。

思っているよりもはるかに多い人間が協力し  
合っていて、周りとの協力が大事なものと改めて  
気がついた。



“無償の労働”という点において、モチベーション  
を保つのが難しいと思ったが、やりがいや楽しさ  
が沢山あることに気づき、気がつけば沢山参加  
していた。



郊外での活動が多かったため、こんなにたくさん  
の方々に関わる機会があるのかと驚いた。



学ぶということ、準備する大切さを改めて感じ  
ることができた。





# 2022年度「スポーツボランティアプログラム」と「地域ボランティアプログラム」を修了しました

スポーツボランティアプログラムの2022年度の活動を、写真や学生の感想とともに振り返ります。昨年、小学生とのパラスポーツ交流イベントや、ブラインドスポーツ大会等、計8回活動を実施しました。

## ■ スポーツボランティアプログラム

ボランティア活動は一人ではできないこと、そしてボランティアは思ったより身近なことがあることを学んだ。



参加者を後押しするイメージでしたが、ボランティアする方も一緒に楽しめるというより明るいイメージになった。



他の人に提供するだけでなく、自分も得るものがあるということに気づくことができた。



ボランティアは相手を助ける・支えるというイメージが強いが、本活動では自分自身が楽しめる、やりがいがあるなど自分へのメリットを感じられる機会だと改めて思う。



ボランティアはただ活動をするだけのものではなく、学びを得られる対象になったり、様々な出会いを得られる素晴らしいものであると、4年間の活動を通して考えた。



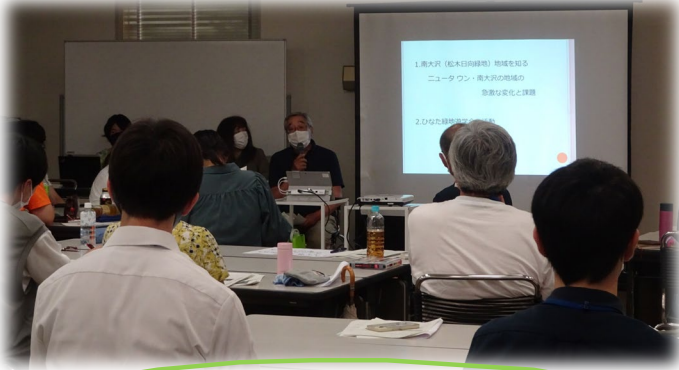
ボランティアをする側にとっても嬉しいことや役立つことがこんなに経験できると思っていなかった。



# 2022年度「スポーツボランティアプログラム」と「地域ボランティアプログラム」を修了しました

地域ボランティアプログラムの2022年度の活動を、写真や学生の感想とともに振り返ります。昨年、参加者同士の交流や、竹の利活用に積極的に取り組み、計9回活動を実施しました。

## ■ 地域ボランティアプログラム



竹林整備などの自然に関するボランティアの話はあまりきかないので、とても新鮮だった。



今まで参加したことがなく他人事だったが、新しく人との交流ができたたり変わった体験ができたりと、良い経験になった。



大学生のイメージが変わった。普段すれちがうだけではわからない個性を感じとることができた。

ボランティアって上手くいくこともあるが、いかないことの方がいっぱいあるなと感じた。



人のためというような側面を大きく捉えすぎていたが、ボランティアに参加すること自体が楽しいと感じることができた。



主体性が必要なのは前から感じていたが、やってみてかなりエネルギーを要するとわかった。



# 2022年度「スポーツボランティアプログラム」と「地域ボランティアプログラム」を修了しました

地域ボランティアプログラムの2022年度の活動を、写真や学生の感想とともに振り返ります。昨年、参加者同士の交流や、竹の利活用に積極的に取り組み、計9回活動を実施しました。

## 地域ボランティアプログラム

ボランティア自体に金銭的な利益はないが何か貢献することへの喜びや達成感を身を持って実感できた。



ボランティアはハードルが高いと感じている人が多いけれど、全くそんなことはなく好きな時にいつでも参加でき、自分で工夫することもでき、自由な活動であると感じた。



ボランティア活動は目に見えるところだけではなく、間接的な場所でも活動ができ、それが日々の生活を少しでも支えることができていることが分かり、イメージが大きく変わった。



ボランティアは、「余裕がある人が社会に良いことを行う」というイメージがあったが、実際やってみるとそのようなことはなく、ただただ楽しかった。

竹を伐採する時の音、竹の匂い、竹の成長力の凄まじさ、根茎の強力さ、などなど、実体験と座学とは大違いであった。このプログラムの陰には、先生的情熱、地域の方々、職員の方々の連携の歴史があることも学び、ボランティア活動は主体的だということが、具体的にイメージできるようになった。



# 荒川キャンパスの第36回青鳩祭に出展しました



2022年10月22日（土）・23日（日）の2日間、東京都立大学荒川キャンパスにて開催された青鳩祭に出展しました。  
 当日は、本センターの他、学内登録団体である**東日本きずなプロジェクト**、学外登録団体である**東京都障害者スポーツ協会**、**荒川社会福祉協議会**、**スーポの会**の3団体に参加いただきました。来場者も**2日間合わせて50名以上**となり、大盛況の中終了しました。ご来場の皆様、参加者の皆様、ありがとうございました。  
 今回は、当日の様子を写真にて振り返っていきます。



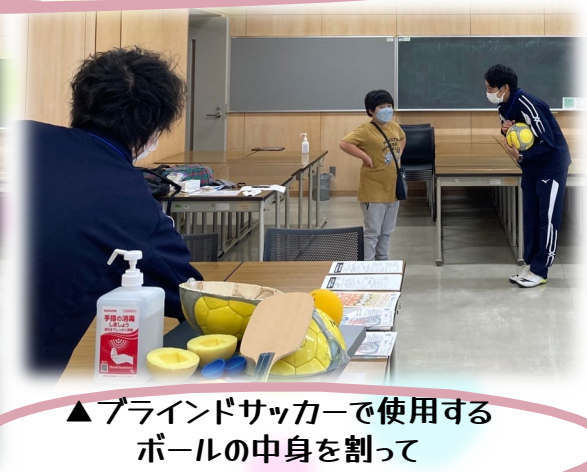
▲東日本きずなプロジェクトについてご紹介しています。

▼ボランティアセンターのブースは青鳩祭では初参加でした。



▲学生コーディネーターが中心となり出展ブースを盛り上げました。

▼東京都障害者スポーツ協会のブースです。



▲ブラインドサッカーで使用するボールの中身を割って見せていただきました！



## 相模原中高生勉強会（旧名称SCOK）

今年度から、団体名を「SCOK」から『相模原中高生勉強会』に変更し、新たなスタートをきった、相模原中高生勉強会の皆さん。

今回は、団体名変更の経緯や、活動内容、今年度の目標等、どんな思いをもって活動しているか、教えていただきました。

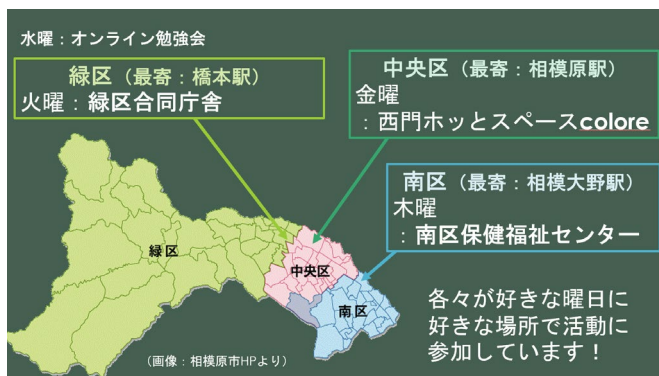
### 1 今回、団体の名称を変更した経緯を教えてください。

変更前の名称である「SCOK」は、呼びやすく親しみやすいものではありませんでしたが、名称からはどのような活動を行っている団体かわかりにくい点が課題でした。そのため、より活動内容を知っていただけるように、「相模原中高生勉強会」と変更しました。

### 2 現在の活動内容を教えてください。

平日の放課後の時間帯に、中学生や高校生の生徒たちと勉強をしたり、お話やゲーム、イベントを行っています。

また、2か月に1回ほど、団体の所有する古民家で農業体験や調理体験をするイベントもあります。（活動場所は右の図を参照）



### 3 今年度の活動における目標やチャレンジしたいことを教えてください。

今年度は、感染症による制限が徐々に緩和されてきています。引き続き細心の注意を払いながらではありますが、これまでは制限によって叶わなかったイベントを行いたいです。また、昨年度までは机にパーティションを設置していたため、生徒と不自然な距離感が生まれてしまう場面もありました。今年度はそれが撤去され、より生徒に寄り添った対応ができると期待しています。

### 4 相模原中高生勉強会にとって、ボランティアとはなんでしょうか？

ボランティアとは、一方的な奉仕ではなく、行う側にとっても心の居場所になるものだと考えております。活動に参加し続けているボランティアに理由を聞くと、「生徒に会うのが楽しいし、自分も安心できる場所だから」と答える人が多いです。ボランティアという肩書きはありますが、活動内ではボランティア・生徒・スタッフの垣根なく全員が一個人として楽しめる場作りを目指しています。

### 5 相模原中高生勉強会のPRをお願いします！

「相模原中高生勉強会」という名前からは、塾のような場所がイメージされるかもしれませんが、実際は教科学習だけではなく、季節イベントをしたり、生徒とお話したりと、学校でも家でもない第三の居場所づくりを行っています。生徒ひとりひとり、ボランティアひとりひとりがそれぞれ个性的で、関わっていくにつれ自分の世界が広がっていくのが実感できます。生徒に教えるだけでなく、生徒から教わることもたくさんあります。子どもが好き、教育や福祉に興味がある、自分の興味関心を人にも伝えたい、などがひとつでも当てはまる人にはぜひ一度見学にきていただきたいです！見学はいつでも受付中です。

## WILDBOARS (ワイルドボアーズ)



2022年10月22日(土)、光明第八保育園で、WILDBOARSの皆さんによる園児へのディアリーディング指導と発表会を行い、多くの子供たちと保護者の皆様にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。また、2023年3月19日(日)には「あらかわ青年大会」に参加し、イベントで演技を披露、非常に盛り上がりました。今回は、WILDBOARSの皆さんに、保育園のチアリーディング指導と「あらかわ青年大会」での活動を振り返っていただきました。

### 1 チアリーディング指導ボランティアで、一番「心が動いた」場面を教えてください。

心が動いたと感じたのは、初めて一曲を子どもたちと一緒に踊りきったときです。それまでは曲を区切って練習していましたが、初めて通して約5分間踊り終わったときの子どもたちのやりきった！という笑顔が忘れられません。できる！と感じることができたこの瞬間は子どもたちの心も私の心も達成感とこれからの期待に大きく弾みました！

### 2 チアリーディング指導ボランティアで、一番苦労したことは何ですか？

動きながら声を出すコールの練習です。英語も含まれていたため、音や発声のタイミングを伝えるのが難しかったです。それでも少しずつ体で覚えていき、子どもたちに自信がついて声が大きくなると、伝わったのだと嬉しくなりました。特に保育園の名前をコールするときには元気よく参加してくれる子どもたちが多く、チアリーディングを楽しんでくれていると感じられました！



### 3 「あらかわ青年大会」への出演を終えての感想を教えてください。

あらかわ青年大会には初めて出場させていただきました。お客さんもスタッフの方々も温かく、一緒に会場を盛り上げることができたと思います！地域の方々が協働して作りあげたイベントに参加することができたことは良い経験となり、とてもとても楽しかったです。さまざまな分野のパフォーマンスを同時に楽しめるのはあらかわ青年大会の魅力のひとつであると感じ、私たちもチアリーディングだけでなくほかの分野のパフォーマンスも参考にしていきたいと思いました。



### 4 WILDBOARSにとって、ボランティアとはなんですか？

私たちWILDBOARSはチアリーディングを通して、元気や笑顔を届けることを目標に演技披露を行っています。ボランティア活動はより一層、この思いを強くする機会となっています。ボランティア活動を通してチアリーダーとしての心構えをより強く持つことができます。まだまだボランティアの活動実績は少ないですが、これからも楽しんで活動できたらと思います！

### 5 WILDBOARSのPRをお願いします！

【Twitter】@tmucheer 【Instagram】@tmu\_wildboars

こんにちは！競技チアリーディングサークルWILDBOARSです🐾私たちは、演技を通して元気や笑顔を届けることを目標に、表現に力を入れた競技チアリーディングサークルです！組体操のような複数人でおこなうスタッツや、ダンス、ジャンプ、タンブリングなどを組み合わせた2分半の演技を披露します！WILDBOARSは少人数のチームですが、高難度のスタッツやキレキレのダンスで観客のみなさんを魅了します🌟学祭や単独公演、さまざまなイベントに参加しているので、ぜひSNSをチェックしてみてください！

# Activity Gallery

ボランティアセンターの登録学内団体がボランティア活動で活躍する様子を写真でご紹介します。

Pick Up  
Guest



## 競技チアリーディングサークル WILDBOARS (ワイルドボアーズ)

- 光明第八保育園で園児へのチアリーディング指導と演技発表（2022年10月）
- あらかわ青年大会での演技発表（2023年3月）



皆さんの生き生きとした表情が  
印象的で元気をもらえます。



子どもたちと一緒に演技しています。  
笑顔がはじけていて、楽しんでいる様子が伝わります！



## 1 メールマガジンに登録しませんか？



センターからのお知らせや学外のボランティア募集、講座案内、助成金情報等をお届けしています。メールマガジン限定で、ボランティア活動を行う現役学生のコラムも掲載しています。本センターの活動状況や、ボランティア情報に興味・関心のある方は是非ご登録ください！学生に限らず、地域の方や高校生等、どなたでも登録可能です。下記URLからご登録ください。

▶ <https://forms.office.com/r/mzSyxAywgb>

※メールアドレスの入力間違いには十分ご注意ください。

## 2 「学生の声」の連載をはじめました！



ボランティアセンターのWEBサイトでは、ボランティアを通じて活躍する学生の声をお届けしています。学生コーディネーターや、スポーツボランティアプログラム・地域ボランティアプログラムの参加者、ボランティアセンターに登録のある学内団体の学生や、ボランティアセンターを通じてボランティアに参加した学生等、様々な形でボランティアにたずさわる学生が、どのような思いや理念をもって活動しているかお伝えします。毎月1度更新予定です。下記URLからご覧ください。

▶ [https://volunteer.tmu.ac.jp/news\\_pr/volunteervoic/](https://volunteer.tmu.ac.jp/news_pr/volunteervoic/)

## 3 ボランティア相談の予約はフォームをご利用ください！

ボランティアセンターでは、ボランティアに関する相談をお受けしています。どんなボランティアがあるの？ボランティアってどうやって始めたらいい？といった学生からの相談や、学生のボランティアを募集したい、といった地域の方のご相談も可能です。下記URLからご予約ください。

▶ 【学生向け】 <https://forms.office.com/r/LAiQFW2aAL>

▶ 【地域の方向け】 <https://forms.office.com/r/ke1QMnYnAb>

### 【表紙】

### 大学生ボランティア活動報告会 登壇者



東京都立大学ボランティアセンターでは、学生の皆さんがボランティア活動を通して社会に参加し、社会のニーズと向き合うなかで、一人ひとりの可能性を広げられるようなサポートを行っています。ボランティアに関するご相談があれば、いつでもボランティアセンターにお越しください。コーディネーターと相談もできます。是非お気軽にお立ち寄りください。

ボランティアセンターの最新情報は  
こちらのQRコードから  
check!

twitter



公式WEBサイト

